

2022年10月26日

<報道発表資料>

東日本旅客鉄道株式会社
KDDI株式会社

離れていても同じ場所にいるかのようにチームが繋がる 「空間自在ワークプレイスサービス」提供開始

- 東日本旅客鉄道株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：深澤 祐二、以下 JR 東日本）と KDDI 株式会社（本社：東京都千代田区、社長：高橋 誠、以下 KDDI）は、「空間自在プロジェクト」の一環で、2022年10月26日から、離れていても同じ場所にいるかのようにチームでのコミュニケーションが可能になる「空間自在ワークプレイスサービス」を提供します。
- 本サービスでは、東京駅など複数拠点で利用可能な「空間自在ワークプレイス」と、お客さまの拠点に設置する「空間自在コネクター」の2つのプランを提供します。
- 従来の Web 会議システムに比べて、会話量が約 48% アップすることが実証されており（注）、生産性の向上が期待されるとともに、駅やオフィスなど多様な拠点が繋がることで、場所にとらわれないワークスタイルを実現できます。

（注）2021年5月17日～2021年6月18日、5拠点（高輪・虎ノ門・神田・北与野・横浜）間での空間接続の実証実験を実施、13社（約500人利用）にご利用いただき、会話量・表情分析並びにアンケート調査を実施。

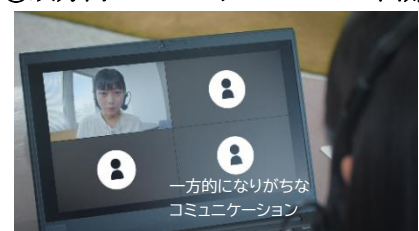
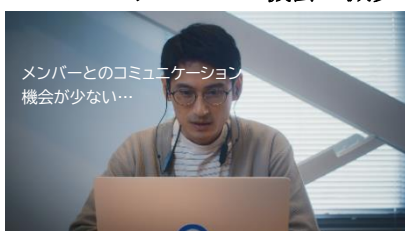


<空間自在ワークプレイス（TokyoYard Building）イメージ>

■本サービスの背景

昨今、テレワークの普及に伴い、メンバー間の会話が減少する、議論が深まらないなど、チームとしてのパフォーマンスの向上が難しくなっています。

- ① コミュニケーション機会の減少 ② コミュニケーション濃度の低下 ③ 双方向コミュニケーションの困難



■本サービスについて

本サービスは、オフィス、ご自宅などのリモート拠点、東京駅などのアクセス至便な拠点間を接続することで、チームメンバー・共創先企業など、多様な相手とどこにいても同じ場所にいるかのようにコミュニケーションを図ることを可能にします。

1. 提供する2つのプラン

利用形態や利用頻度に応じてお選びいただける2つのプランをご用意しています。また、「空間自在ワークプレイス」と「空間自在コネクター」間の接続機能も予定しています。

(1)「空間自在ワークプレイス」

東京駅など、駅近くの好アクセスな拠点でご利用いただけるサービスです。

(2)「空間自在コネクター」

お客様のオフィスなどの専有の場所でご利用いただけるサービスです。

2. 特長

2つのプランにより、お客様の利用シーンに応じて、利便性の高い駅近くの拠点や、お客様のオフィス、ご自宅などのリモート拠点など、最適な拠点にご導入いただけます。

(1) 臨場感のある映像・音声接続



- ・4K 相当の高画質映像を大画面に表示できるため、参加者の表情や反応を見ながらのプレゼンテーションや、実物を見ながらのコミュニケーションが可能です。
- ・発言者の位置から音が聞こえるサラウンドシステムを備え、複数人でのディスカッションもスムーズに行えます。

(2) 様々な便利機能



- ・接続画面上の資料を透過させることができ、発言者、参加者全員の表情や様子を見ながらプレゼンテーションを行うことが可能です。(透過での資料投影)
- ・最大10名まで、バーチャルコネクターを使用して、ご自身のパソコンから参加でき、拠点の映像や資料を高精細に見ることができます。(リモート参加)

※本サービスは、実証実験により、従来のWeb会議と比較して、会話量が約48%増加する結果を得られています。

3. さまざまな利用シーン

ワークはもちろんのこと、習い事や教育、ものづくりなど、さまざまなシーンでご活用いただけます。



複数人での同時コミュニケーションは、英会話などさまざまなレッスンの質を高めるとともに、懇親会にも最適です。



表情や身振り、場の雰囲気が伝わるため、採用や研修、教育など多様な場で質の高いコミュニケーションを可能にします。



地方の生産者と首都圏の店舗を空間接続しての対面販売など、場所にとらわれない新しい体験を提供します。

4. 「空間自在ワークプレイス」プランの詳細

(1) 展開エリアについて

駅の近くなど利便性の高いエリアに拠点を整備しています。今後も順次拠点を拡大予定です。

エリア	拠点名	アクセス	開業日
東京	STATION DESK 東京 premium	東京駅八重洲中央口 徒歩約 1 分	2022 年 11 月 10 日
	サピアタワー (ステーションコンファレンス東京)	東京駅日本橋口直結	2022 年 11 月下旬 (予定)
高輪	TokyoYard Building 9 階	高輪ゲートウェイ駅 徒歩約 6 分	2022 年 10 月 26 日
横浜	JR 横浜タワー (STATION SWITCH 横浜)	横浜駅北口改札 徒歩約 1 分	2022 年 11 月下旬 (予定)
大阪	大阪梅田ツインタワーズ・ノース 26 階貸会議室	大阪駅御堂筋南口 徒歩約 5 分 阪急大阪梅田駅 3 階改札口 徒歩約 5 分	2022 年 10 月 26 日

(2) 提供料金について

2つの料金プランを提供します。ご契約の料金プランや契約アカウント数に応じて、一定時間ご利用いただけます。

プラン名	チームスペースご利用可能時間	月額料金
ライトプラン	4 時間	30,000 円 (税抜) /アカウント
レギュラープラン	8 時間	50,000 円 (税抜) /アカウント

※契約プランに応じた利用時間枠上限に達した場合には 100 円 (税抜) 単位でチャージが可能です。

※会員以外でもゲストユーザーとして参加ができます。

※チームスペースご利用前後での仕事に便利な個人利用のソロスペースをご用意している拠点もあります。

※詳細は空間自在プロジェクト HP にてご確認ください。<https://kukanjizai.com/>

(3) お申込みについて

空間自在事務局へ、導入のご相談やお見積りなど、お気軽にお問い合わせください。

空間自在事務局メールアドレス：kukanjizai@jreast.co.jp

5. 「空間自在コネクター」プランの詳細

(1) 導入場所について

オフィス内に設置し、お客様の部屋同士を接続してご利用いただけます。

(2) 提供料金

基本料金	50万円（税抜）／月額
設定手数料	10万円（税抜）／初期

※設置する場所（部屋）単位でのご契約となります。

※お客様の環境に設置する機器類は、基本料金内でご利用いただけるほか、お客様ご自身でのメンテナンスは不要です。

※ネットワーク回線は、お客様の既存の回線をご利用いただくことも可能ですが、本サービス専用のインターネット回線のご提供も可能です。

(3) お申込みについて

KDDI 法人営業担当へ、導入のご相談やお見積りなど、お気軽にお問い合わせください。

<https://kukanjizai.com/>

■今後の展開

「空間自在ワークプレイス」は、「高輪ゲートウェイシティ（仮称）」のまちづくりの一環として JR 東日本と KDDI が取り組む、場所や時間にとらわれない働き方・暮らし方を創出する「空間自在プロジェクト」から生まれたサービスです。

JR 東日本と KDDI は、今後も「空間自在ワークプレイスサービス」の展開により、日本各地と世界を繋げ、企業の拠点分散を支援するとともに、ヒトを起点としたくらしの創出に取り組んでいきます。

■先行導入されたお客さまの声（ユースケース）

・アイレット株式会社

クラウドインテグレーション事業部 事業部長 小林弘典氏は次のように述べています。

「アイレットでは、お客さまのインフラ環境を安定運用する MSP（Managed Service Provider）チームが、DR（Disaster Recovery：災害復旧）の観点から、東京・大阪の二拠点で24時間365日の有人監視を実施しています。

これまでチーム間の情報共有は、全メンバーが参加する形でビデオ会議を実施していました。しかし、お客さまからのご連絡やセキュリティルームでの対応などでコミュニケーションが途切れてしまう、また、他拠点で作業するメンバーの状況が把握できないなどの課題がありました。

今回、「空間自在コネクター」を導入することで、各個人がビデオ会議に参加する必要がなくなり、作業に集中しながらもお互いの状況を把握することが可能となります。これにより、作業品質の向上と、拠点到依存しないチーム編成の可能性に期待しています。」



・伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

札幌開発センター ソリューションエンジニアリング第2部 主任 小原渉氏は次のように述べています。

「CTC 札幌開発センターは、フルリモートでのスクラム開発を行っています。スクラム開発では、チームでのコミュニケーションの質が生産性に直結します。従来環境では、細かなニュアンスを伝えあうことに苦勞することも少なくありません。

本サービスを活用することで、リモートでありながらもその場にいるかのような質の高いコミュニケーションを通じて、チームの生産性が高まることを期待しています。」



・富士通株式会社

総務本部 ワークスタイル戦略室 マネージャー 河野芳枝氏は次のように述べています。

「当社では、Work Life Shift のコンセプトのもと、ニューノーマルな働き方を実践しています。その中の一例として、ハイブリットワークを推進しており、オフィスは、イノベーションの源泉となる様々な体験ができるエクスペリエンスプレイスとしています。

具体的には、人が集まって、雑談をしたりディスカッションしたり、Face to face のコラボレーションする場としています。そのオフィスに、空間自在ワークプレイスサービスを導入することによって、遠地のメンバーとも、同じ空間にいるかのようにクリエイティブな仕事ができ、多くのイノベーションが生まれることに期待を寄せています。」

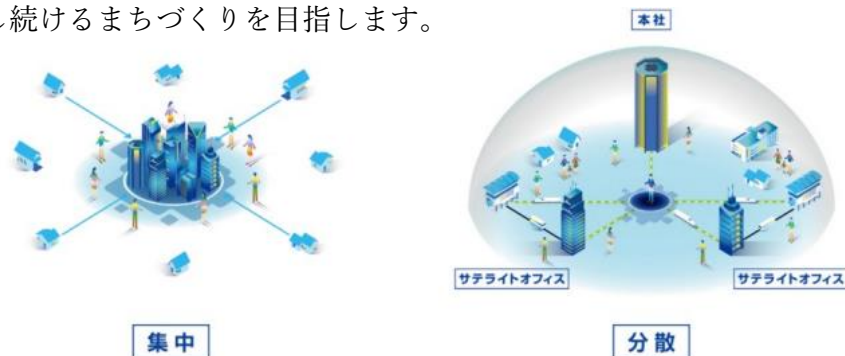


(参考)

■「空間自在プロジェクト」(<https://kukanjizai.com/>) について

JR 東日本と KDDI は、交通と通信の融合により、場所や時間にとらわれない多様な働き方や暮らしを創出する新しい分散型まちづくり「空間自在プロジェクト」の実現に向け、2020 年 12 月 14 日に基本合意書を締結しました。

「空間自在プロジェクト」における都市部のモデル地域として、「高輪ゲートウェイシティ（仮称）」のまちづくりを共同で推進します。5G を前提とした最先端の通信インフラとサービスプラットフォーム（都市 OS）を両社で構築することにより、働く人・住む人・訪れる人の暮らしと都市機能が連携し、アップデートし続けるまちづくりを目指します。



<空間を超えたあたらしい“暮らし”を実現する「空間自在プロジェクト」>

・2020 年 12 月 15 日報道発表：JR 東日本と KDDI、品川開発プロジェクト（第 I 期）をコアとした新たな分散型まちづくりの共同事業化に向けて基本合意

(<https://news.kddi.com/kddi/corporate/newsrelease/2020/12/15/4865.html>)

・2021 年 5 月 11 日報道発表：離れた場所においても同じ空間にいるように仕事ができる「空間自在ワークプレイス」の実証実験を開始

(<https://news.kddi.com/kddi/corporate/newsrelease/2021/05/11/5095.html>)

■「高輪ゲートウェイシティ（仮称）」のまちづくりについて

JR 東日本は、品川開発プロジェクト（第 I 期）として、「高輪ゲートウェイシティ（仮称）」のまちづくりを推進しています。江戸への玄関口としての役割を担った歴史的背景および国内初の鉄道が走った地におけるイノベーションの記憶を継承し、開発コンセプトに「Global Gateway」を掲げ、「100 年先の心豊かな暮らしのための実験場」として新たな文化・ビジネスが生まれ続ける街を目指しています。

MICE 施設、オフィス、商業などを含む複合棟 I および高輪ゲートウェイ駅周辺エリアを 2024 年度末（2025 年 3 月）に開業し、その他の棟（複合棟 II・文化創造棟・住宅棟）および各棟周辺エリアを 2025 年度中に開業します。

・「高輪ゲートウェイシティ（仮称）」のまちづくりについて

(https://www.jreast.co.jp/press/2022/20220421_ho01.pdf)



<高輪ゲートウェイシティ（仮称）のイメージ>

以上